

「子ども達を中心に考える活動を」

松本 宏美 (朝霞地区)

私は、精神科の看護師から助産師になりました。特に素敵なきっかけがあった訳ではなく、思いつきに近いものです。珍しい人だと言われましたが、あまり気になりませんでした。看護学生時代から人の愛着関係や生育歴に関心があったので、共通点はあると思っていたからです。

助産師になって臨床を経験するうち、私の関心は退院後の育児を支える事、に変化していきました。母乳育児について学び、新生児訪問等地域での活動を経て、保健指導型開業助産師になりました。

そして今、私は乳児院看護師をしながら助産師活動を続けています。

産後ケアに携わる中で乳児院に児を託すケースに出会うこともありましたが、子ども達を支える側になりたいと思ったのです。実際は、生活のお世話をしながら目一杯遊び、出来るだけ楽しい時間、心地よい感覚を知ってもらう事にエネルギーを注いでいる日々ですが、多様な背景を持つ子ども達が、将来遭遇するであろう困難を想像すると、言いようのない胸の痛みと無力感に襲われています。

助産師活動の中では、特に性教育の場面で今まで以上にお子さんの背景を考える様になりました。内容や言葉選びに配慮する事、家庭で教わる機会のない子に、自分の心と体を守る権利を伝える事など、包括的性教育の重要性を痛感しながら活動しています。理想を見据えての活動と、現実に存在する子ども達を支えるための活動と、両方忘れずに今後も活動していきたいと思えます。



令和4年度表彰受賞者の紹介 (※令和5年2月現在/受賞日順)

表彰者	地区	受賞名
山崎千鶴	さいたま市地区	埼玉県看護功労者知事表彰
大林律子	幸手地区	日本助産師会会長表彰
鈴木幸子	越谷地区	日本助産師会会長表彰
臼倉早苗	川口地区	優良助産師厚生労働大臣表彰
鈴木幸子	越谷地区	産科医療功労者厚生労働大臣表彰
大石智子	朝霞地区	健やか親子21全国大会厚生労働大臣表彰
日野暁子	春日部地区	健やか親子21全国大会家族計画協会会長表彰
(一社) 埼玉県助産師会		埼玉県公衆衛生事業功労者知事表彰

お知らせ

この度、より安全に当会ホームページをご利用いただけるよう、常時SSL化 (https化) を行いました。それに伴い、URLが変更となりましたのでお知らせいたします。

<http://mw-saitama.com> (旧URLアドレス) ▶▶▶ <https://mw-saitama.com> (新URLアドレス)

ブックマークやお気に入り登録されている場合は、お手数ですが新URLアドレスにて再登録をお願い致します。

通常総会のご案内

令和5年5月20日(土)
10:00~

現地開催とWeb配信のハイブリット形式にて開催予定です。

埼玉県助産師会会報



～ 埼玉県助産師会の理念 ～

すべての生命を大切にし、
社会から信頼されるケアを行います

No. 52
2023. 3. 16
発行



創立100周年記念式典

CONTENTS

- 2 会長挨拶
- 3 部会活動報告
助産所部会 「部会員としての取り組み」
保健指導部会 「全ての会員が安全に業務に従事できる環境を
～安全管理指針作成や保険加入の割合について～」
- 4 勤務助産師部会 「勤務助産師部会の1年」
- 4,5 研修会報告
- 5 「第18回いっしょにお産、たのしく育児」を終えて
- 6,7 特集『埼玉県助産師会 創立100周年記念式典』
- 8 スポットライト「子ども達を中心に考える活動を」
今年度の表彰者の紹介 通常総会のご案内

会 員 数 348名
(2023. 3. 1 現在)
助産所部会 52名
保健指導部会 131名
勤務助産師部会 163名
名誉会員 0名
特別会員 2名

【新会員の募集】
助産師会の会員を随時募集しています。
ホームページをご覧ください。
TEL: 048-799-3614
E-mail: mw-saitama@royal.ocn.ne.jp
一般社団法人 埼玉県助産師会 事務局

Baby madonna
乳頭キレッツのケアに!
赤ちゃんのおムツかぶれにも

天然成分 100%
スキンケア指導で人気です!

- お産セットに
- 産科での指導に
- 産院・母乳育児相談室で
- 母子訪問指導時に

TEL.0120-28-2267

会長挨拶



ごあいさつ

会長 牧岡晴美

令和5年となりました。昨年、本会は無事に100周年を迎えることができました。

令和4年11月9日、第66回埼玉県公衆衛生大会式典において、公衆衛生事業功労者としての団体表彰を頂きました。本会の永年にわたっての活動が評価されて大変名誉な事と思います。そして12月11日の「一般社団法人埼玉県助産師会 創立100周年

記念式典」の開催にあたりまして、埼玉県知事 大野元裕様、さいたま市長 清水勇人様、産婦人科医会会長 平田善康様、埼玉県看護協会会長 松田久美子様、日本助産師会会長 島田真理恵様の御臨席を賜りました。また、関係機関の御来賓の皆様方と、多くの会員の参加のもと、盛大に開催させて頂きました。新型コロナウイルスの感染拡大を鑑みて、残念ながら祝賀会とまではできませんでしたが、心に残る式典となりました事を御報告させて頂きます。また、100年の歴史を振り返るべく“記念誌”を作成いたしました。本会の歩みの貴重な資料と共に、諸先輩方の御足跡をたどる機会となり、素晴らしい記念誌となりました。日頃より御厚情と御鞭撻を頂いております関係各位、また会員の皆様方には既に送付させて頂きましたので、御高覧いただけましたら幸いです。お一人お一人に厚く御礼申し上げますと共に、御尽力頂きました皆様方に深く感謝申し上げます。心からの“乾杯”です。

さて、令和3年母子保健法の一部を改正する法律が成立しました。産前産後の母親の育児不安や産後うつ状態が子供への虐待を誘引すると考えられており、出産後1年以内の母親とその子を対象として、家族が健やかに生活できるよう支援することを目的として「産後ケア」が始まりました。そして、令和5年4月1日には「こども家庭庁」が設置されます。市町村など地域での助産師の活動範囲も広がりつつあります。全国的に少子化が進む中で、助産師の継続した支援を必要としている母子や家族は増加傾向にあり、時代のニーズに応じた対応が必要とされています。長引くコロナ禍で対応が難しいこともあるかと思いますが、それぞれの医療環境で工夫をし、助産師が寄り添い、役割を果たすべく、今後とも埼玉県の母子保健の推進と向上に寄与して参りたいと思います。

101年目、本会の新たなスタートとして、更なる一歩へと踏み出して参りましょう。本会の更なる発展と会員の皆様の御活躍を祈念いたします。



令和4年11月9日 埼玉県衛生大会にて

部会活動報告

助産所部会報告

朝霞地区 高瀬 洋子

「助産所部会員としての取り組み」

埼玉県助産師会は100周年を迎え、昨年12月に記念式典を無事終えました。長年に渡り、諸先輩方が地域の母子保健活動を通し、助産師会をつないでこられた功績に胸が熱くなる思いでした。気持ちを新たに從事してまいりたいと思います。

私は朝霞市の出張専門助産師で、他県ですが継続ケアを目的とした産院のお手伝いをさせていただいています。

また部会運営委員として今年は初の三部会合同によるブラッシュアップ研修会の企画に参加させていただきました。COVID-19による時代の変化に伴って研修会もオンライン化していますが、会議では運営委員長を中心とした委員の皆様方の発言や企画の進め方など、他の部会の方々と会議は学びと刺激になりました。会員の皆様からのご意見を踏まえ、来年度研修会も委員皆さまとブラッシュアップしていきたいと思っています。

また、自身の活動としては、昨年自宅出産を手伝わせていただきました。その方が小学生の頃、母親が弟を自宅で出産する際に立ち合い、とても感動して助産師を目指すようになったそうです。その弟さんが中学生になったとき、当時母親のお産を介助した助産師が弟さんの中学校へ性教育に行くことになったため、家族みんなで会いに行き、校長室で14年ぶりの再会を果たしたという温かいニュースを聞きました。

このような先輩方の助産師活動が見えない形で今なおも息づいていること、幸せな出産体験が次世代に渡り幸せの連鎖をもたらしていることを確信しました。今、社会問題となっている鬱や自殺、育児不安や虐待、少子化問題の予防にもつながり、社会における助産師の役割は大きいと感じます。私も細々ではありますが、目の前の今できることを丁寧にやっていきたいと思いました。



保健指導部会報告

川越地区 田代 珠美

「全ての会員が安全に業務に從事できる環境を ～安全管理指針作成や保険加入の割合について～」

助産師会の皆様にはいつもお世話になっております。川越地区で母乳育児支援の助産所を開業している田代珠美です。保健指導部会の地区代表では埼玉県保健指導部会の会員管理調査を担当しました。

安全管理調査では、毎年の調査内容に加え、安全管理指針の作成者や、保険の加入者の割合を算出しました。その結果、安全管理指針の地区での作成者割合は40%、ウーベル賠償保険の地区での加入者割合は71.1%、ウーベル以外の賠償保険の地区での加入者割合は28.9%という現状が把握できました。

令和4年の12月17日に行われた保健指導部会の部会集会では「安全管理指針を作成してみよう」というテーマで「会場」と「オンライン」のハイブリッド形式で部会集会を開催しました。少しずつでも、会員が確実に安全管理指針を作成でき、安全に業務に從事できる環境が整うと嬉しいです。

私事ですが、今年は自身の不妊不育の治療もあり、医療の力を借りることができる時代に生まれたありがたさと、“普通”のことができない自分の不能感に苛まれる日々が続きました。頻回な受診や処置のために色々な予定を調整したり、薬の副作用で体調がよくない中での会議の参加は難しいと感じることもありました。

助産師会の活動を行う上で色々な背景の会員が活動していることと思いますが、助産師会に入っていてよかったと思えるような人とのつながりがこれからも続いていきますことを心から願っています。



「勤務助産師部会の1年」

勤務助産師部会としての令和4年度は、部会集会で部会員の皆様と情報交換を行う所から始まりました。直接会うことは叶いませんでしたが、貴重な交流の場となりました。

特に、コロナ禍において遭遇する未知への対応に、他施設はこういう時どうしているのだろう…と思うことは少なくありません。そのようなときに、助産師会で出会った皆様からの情報はとても心強く、参考になります。あとのどのくらいこの闘いが続くのか、先はまだ見えませんが、勤務助産師部会の仲間として、これからもお互いに支え合える関係を築いていくことができたら、と思っています。部会内で会員の皆様とより大きなつながりが生まれると、さらに発展した勤務助産師部会となるのではないかと期待しています。

また今年度は、三部会合同でのブラッシュアップセミナーが配信され、多くの方のお申込みをいただき、無事に終了いたしました。会員の皆様の要望を知ること、それに応えること、先生方との交渉、その準備から配信の終了まで、さまざまな貴重な経験ができました。この経験を生かして、学ぶ機会をよりよい形で準備できるよう、新年度に向けて新たにスタートしたいと思います。

今後とも、よろしくお願い申し上げます。



研修会報告

月日

災害対策委員会研修会 「災害時、すぐにはじめられる母子支援」

開催日 令和4年11月6日

本年度、埼玉県助産師会では、埼玉県と話し合いを持ちながら災害時マニュアルを作成し、関係機関との連携システムの構築を進めております。埼玉県は災害も少なく実際に支援を経験された会員も少ないため、災害についての学習の機会を得ることを目的に今回の研修を計画しました。災害の多い少ないに関係なく、準備をしている地域は被害を少なくすることができるのと、平時の準備の大切さをあらためて実感しました。



あんどう りす先生

リスク対策.com名誉顧問、
 新建新聞社「りすの四季だよ
 り」著者、FM西東京 防災番
 組 パーソナリティ、長野県佐
 久医師会 教えてドクタープロ
 ジェクトチーム、兵庫県立大
 学大学院 減災復興政策研究科
 博士課程など

あんどうりす先生の研修会は、母子についての観点でたくさんの具体的な情報が網羅されています。講義では、母乳育児支援に関してお母さんと赤ちゃんの気持ちを読み取る実演をしたり、アレルギーに関してなかなか支援が行き届かない現状と、2週間の備蓄の必要性などを教えて頂きました。水害の実際や具体的な対処の仕方なども目からウロコでした。溺水時の子供は声も出さずに静かに沈んでいくこと、ハザードマップや防災アプリの見方、ライフジャケットの必要性、医師会・弁護士会の情報など実際の支援に欠かせない内容ばかりでした。

災害時、母子は避難所に行きづらい状況もあることから、自宅での注意点や、女性の視点から見た避難の在り方について具体的にご指導いただいたことで、助産師会の存在の重要性を再認識しました。また、避難する時、女性は一家の中心的存在であり、子供や祖父母たちなど必ず誰かを連れていきます。その観点からも女性の声は大事であり、自治体任せにせずこちらからも訴えることが大切に感じます。助産師の存在をもっと周知していく必要性や、専門職としての方向性を考えさせられました。さらに、子供は避難所で遺体安置所遊びをすることもと資料にあり、遊び場や子供の気持ちのケアまで考えられる助産師の存在でありたいと思います。

災害対策委員会委員長 増子 麻里



第1回思春期保健研究会 「子どもたちの発達要求に応える性教育」

令和4年8月4日に門下裕子先生をお迎えし「子どもたちの発達要求に応える性教育」を開催致しました。門下先生は、「知的障がい児・者の『性の権利』尊重の為の教育および支援に関する研究」に取り組まれており、執筆・講演活動を通し性に関する支援アドバイスをされています。

当日は特別支援学級を始め県内の養護教諭、助産師、学校SWと多職種の方々が参加されました。門下先生が今まで培われてきた「障がいを持つ方々の抱える現状」や「障がいがある・ないに関わらず『性の権利』がある」ということ、そしてご自身の経験の中から「生徒さんに教えた事で教えられ、温かい気持ちを貰うことが出来た」とのお話は、参加者の胸を打つものでした。

講演会の後はZoomのブレイクアウトルームを活用したディスカッションを実施。活発な意見交換がなされました。最後のまとめでは、グループでの話し合いを全体で共有し、参加者から持ち上がった質問や困りごとには門下先生からお答え頂き、有意義な内容で幕を閉じました。

ひとえに門下先生の人間性が講演全体に表れ、参加者それぞれに考える貴重な時間となったと思いました。研究会の開催によって自分自身の「どう在るか」を考えさせられ、ほんの数時間ではありますが、時間を共有した仲間と前進する意欲を貰える気がしています。今後の研究会にも大いに期待頂きたいと私の報告とさせていただきます。

萩原 佑喜 (春日部地区)

安全対策委員会研修会 「多様化する母子ケアと医療安全」 -withコロナ時代に必要な安全の考え方-

令和4年度の安全対策委員会の研修会はオンラインで「多様化する母子ケアと医療安全～コロナ時代に必要な安全の考え方～」と題して、東京かつしか赤十字母子医療センター看護部NICU師長の野町寧都氏に講演をいただきました。参加者は助産所部会会員が参加者の半数、ついで保健指導部会、勤務助産師部会でした。私は保健指導部会所属ですが、とかく保健指導を主たる活動としている会員（自身も含めて）は安全管理の意識が低いように感じます。保健指導では重大な命に関わる事故が起きにくいことはありますが、訪問など一人で活動することも多く、安全に対する意識は必須でしょう。



講義からはヒューマンエラーは必ず起きるという意識を常に持ち、適切なフォローが必要ということが理解できました。また、安全対策委員会の役割の重要性を再認識しました。病院で仕事をしていれば事故が起きた時、その病院で対応してもらえますが、地域で活動している助産師は助産師会がフォローする役割を担うこと、事故を起こした個人が責められるのではなく、組織の責任であるという意識で助産師会会員を守ることが安全対策委員の役割であると認識しました。事故の事実経過の把握とその対策を検討すると同時に、当該助産師のサポートが重要であることを知り、安全対策委員の役割の重要性を痛感しました。今回の講義を常に心に留め、今後の安全対策委員や自身の活動に生かしていきたいと思えます。

野町 寧都 先生

金子 弘恵 (草加地区)

第18回『いっしょにお産、たのしく育児』を終えて

この度はオンデマンド配信という新しい挑戦をしました。コロナ禍にあっても、多くの方に助産師からの情報を届けたい、伝えたいという熱意をもって、8つのテーマの動画を制作しました。配信期間は11月1日～11月30日。視聴数は動画ごとの差はあるものの、最高745回を数えました。視聴者アンケートでは95%の方々に好意的な感想をいただきました。(満足55%、やや満足40%) また、イベントの周知にSNSを活用したことも新しい挑戦であり、対象を広範囲に広げることが出来ました。「もっと長く配信して欲しい」というコメントもあり、大変嬉しく思いました。視聴して下さった多くの方々に感謝申し上げます。

企画・制作・広報などの役割ごとにチーム分けし、それぞれのチームはLINEやZoomで意見を出し合いました。オンラインだからこそ地区の垣根を越えて、会員同士が実によく交流していました。仲間意識が芽生え、知恵と知恵を重ね合うことで大きな成果が生まれました。何度も撮り直したり、編集し直したり、苦勞も多々ありました。しかし、やりきった達成感やワクワクする気持ち、楽しかったと感想を述べる会員が多くいたという事実を、この場でお伝えしたいと思います。

一人では出来なかったこと、誰が欠けても成し得なかったことです。私たちは本当に素晴らしいことをしたと胸を張れると思っています。

いっしょにお産、たのしく育児実行委員 橋本 幾子 (熊谷地区)

一般社団法人 埼玉県助産師会 創立100周年記念式典

令和4年12月11日、ホテルブリランテ武蔵野（さいたま市中央区）にて「一般社団法人 埼玉県助産師会 創立100周年記念式典」が開催されました。

当日は天候にも恵まれ、多くのご来賓ならびに会員にご臨席いただき、大変厳かな雰囲気の中、記念式典が執り行われました。

100年間の歴史を振り返るとともに、これまで以上に各関係機関との連携・協働を進め、次の100年に向けての決意を表明する場となりました。



山田美津枝副会長の開式の辞により始まった記念式典。はじめに、牧岡晴美会長による会長挨拶がありました。牧岡会長はその中で「これからも本会が目指すところの社会から信頼されるケアの資質向上を目指し、次世代に引き継いでいけるよう会一丸となり、ワンハートで邁進してまいります。」と抱負を語られました。

続いて、ご来賓の中から埼玉県知事 大野元裕様、さいたま市長 清水勇人様、埼玉県産婦人科医会会長 平田善康様、埼玉県看護協会会長 松田久美子様、日本助産師会会長 島田真理恵様よりご祝辞を頂戴いたしました。また、日本医師会会長 松本吉郎様よりご祝辞をビデオメッセージにて頂戴いたしました。その後、司会者より会場にいるご来賓の方々の紹介と祝電が披露されました。



埼玉県知事
大野 元裕 様



さいたま市長
清水 勇人 様



埼玉県産婦人科医会会長
平田 善康 様



埼玉県看護協会会長
松田 久美子 様



日本助産師会会長
島田 真理恵 様



日本医師会会長
松本 吉郎 様

最後に、本会の歴代会長を代表し、小田切房子元会長による挨拶がありました。大正11年の創立から第2次世界大戦後の助産師職廃止の危機を乗り越えて現在に至る本会の歴史が紹介され、「助産師は人が生まれ、育つ中で大切な役割を果たす職業だと思っております。本日、創立100周年を迎えられましたことに感謝して、これからまた埼玉県助産師会創立200周年に向かって、そして社会から求められる助産師会に向かって、会員一同努力してまいりたいと思います。」とお話がありました。

渡邊薫副会長による閉式の辞をもって閉式となりました。

当初、式典終了後には祝賀会が予定されておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため残念ながら中止となりました。代わりに、式典終了後に歓談の時間が設けられ、参加者同士が懇親を深めました。



創立100周年記念式典を終えて

埼玉県助産師会100周年特別委員会委員長 渡邊 薫

令和4年12月11日に、埼玉県助産師会創立100周年記念式典を開催致しました。来賓12名、会員65名、計77名のたくさんの方に参加して頂きました。埼玉県知事、さいたま市長をはじめ、日頃お世話になっている日本医師会、埼玉県産婦人科医会、埼玉県看護協会、日本助産師会の各会長より、それぞれご祝辞を頂きました。胸に残る熱いメッセージを頂き、大変感謝しております。参加者全員での写真撮影も、時間がない中ではありましたが良い記念になったと思います。コロナ禍のためなかなか直接お会いする機会が少なくなっている今、この式典が久しぶりに会う機会となり、各場所で会話が弾んでいる様子を見ながら、無事に開催できたことにとっても安堵しているところです。

100年続いた埼玉県助産師会をこれから益々盛り上げてまいりましょう。今後とも、どうぞよろしくお願いたします。



※写真撮影時のみマスクをはずしています。



100周年の歴史や活動を振り返る
スライドショーの上映



これまでに発行された
支部会だより・会報誌の展示



100周年記念誌

コラム 大先輩の声

今回、埼玉県産婆会初代会長の宮崎とし様による、埼玉県産婆会会報「發(発)刊の辭(辞)」から一部を抜粋してお届けします。(括弧内は広報委員による補足)
いつの時代も変わらない、熱い助産師魂が伝わってきます。

さきに諸姉の熱心なる努力により縣産婆會の創立を見その前途はますます堅實(実)に向ひつゝあります。どうか會員諸姉が産婆の業務が女子にのみ與(与)へられたる天職であることを自覺し不斷の研學と職務に忠實(実)ならん事を期し恒に同性の苦痛を察し愛らしき天使の社會活動の第一歩をして完全に幫助の勞(労)を取りなほ母兒共に幸福に愛の世界に導きたいものでございます。されば私たち産婆の業務は與へられたる天職の内でも最も楽しい尊いものでございます。發刊に際し諸姉と共にこの天職を心に深く誌したいと存じます。